

意見書

公益社団法人日本青年会議所 関東地区 群馬ブロック協議会
2026年度 会長立候補者 山崎誓大

青年会議所に対する意見書

私は今、地域の未来を担う一人の青年として、そして公益社団法人日本青年会議所関東地区群馬ブロック協議会の一員として、改めて群馬の可能性と真摯に向き合い、その歩むべき道を見据え、次世代へつながる確かな一歩を踏み出してまいりたいと決意しております。

群馬県は、首都圏に近接しながらも、豊かな自然と落ち着いた暮らしが共存する、非常にバランスの取れた地域です。草津や伊香保に代表される全国屈指の温泉地、赤城・榛名・妙義の名峰、そして雄大な利根川の恵みを受けた農産物と、水と空気が美しい風土。さらに、古くからのものづくり産業や文化、地域を支える人々の温かさなど、群馬には実に多くの魅力が詰まっています。こうした地域資源に支えられ、群馬県は住みやすさや移住先としての評価も徐々に高まってきています。

しかし、現実にはその魅力が十分に伝わっているとは言い難く、全国の「都道府県魅力度ランキング」では長年下位に低迷しています。それは単なる数字の問題ではなく、県外からの認知不足、発信力の弱さ、そして何よりも地元に住む私たち自身が、自分たちの地域に誇りを持っていないという現実を突きつけているのではないのでしょうか。

このような状況に対して、私たちに今求められているのは、「群馬の魅力を再編集し、発信する力」です。魅力的な資源はすでに私たちの足元にあります。それをどう伝えるかが問われているのです。SNS や動画をはじめとしたデジタルメディアを活用し、若者や県外の人々に響くストーリーやメッセージを届けていく必要があります。群馬の魅力を「再発見」し、「編集」し、「拡散」すること。それが地域の誇りを育て、地元を想う気持ちにつながると信じています。

また、「移住・定住を支える広域ネットワークの構築」も重要な事柄です。コロナ禍以降、地方への関心が高まり、群馬県でも移住希望者が増加傾向にあります。これはチャンスであるとともに、安心して新しい生活を始められる仕組み、地域に溶け込み、誇りをもって暮らし続けられる環境づくりが急務です。LOM 間の連携を強化し、空き家の利活用、起業支援、地元企業との接点づくり、地域体験イベントなど、移住者と地元住民双方にとって価値ある仕組みを広域で展開していくことが必要だと考えます。

そして、私たち青年会議所自身にも大きな課題があります。それは会員数の減少です。私たち JC の会員減少は、単なる組織の縮小にとどまらず、地域を支える若者の減少、すなわち地域の担い手不足という社会課題そのものでもあります。「会員減少への対応と組織の強化」は喫緊の課題です。私たちは、JC 運動の理念と意義を再確認し、社会に対してその価値を明確に示していく必要があります。青年会議所に参加することが「地域の未来を創ること」と直結しているという実感を、ひとりでも多くの人に伝えていきましょう。県内 12LOM が協力し合い、県民との接点づくりを伴う事業展開を通じて、「信頼」と「共感」によるブランディングの実践を行うことが大切であると考えます。

また、「行政・企業・教育機関との連携」も、より一層強化すべき重要な課題です。地域が直面する複雑な課題は、一団体の力だけでは到底解決できません。だからこそ、私たちは若者の視点をもって、多様な主体を結び付け、地域にとって必要な政策や仕組みを共創するハブ機能を担ってまいります。青年会議所は「人をつなぐ力」を持っています。その力を地域のために最大限に活かし、持続可能な地域づくりへとつなげていきます。

こうした中で、群馬ブロック協議会の担うべき使命は非常に大きいと考えます。単なるLOM間の調整役にとどまらず、「地域の未来を創る青年集団」として、自覚と誇りを持って行動することが必要です。未来を描くために必要なのは、「変化を恐れない意志」と「仲間とともに挑戦する勇気」です。

2026年度、私は群馬県内の仲間たちと力を合わせ、「行動するJC」「誇れる群馬」「持続する地域」の実現を目指し、全身全霊をかけて挑んでまいります。どうか皆さまのご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

公益社団法人日本青年会議所 関東地区 群馬ブロック協議会
2026年度 会長立候補者 山崎誓大